

11 月定例記者会見 質疑応答

▽日時:令和6年11月28日 午前11時から

▽会場:稲敷市役所 4階全員協議会室

▽参加記者:茨城放送、茨城新聞、朝日新聞、読売新聞、時事通信社、NHK、毎日新聞(7社)

▽参加者(市):市長、副市長、教育長、行政経営部長、市民生活部長、教育部長、危機管理監、土木管理部長、地域振興部長、保健福祉部長、総務課長、企画財政課長、秘書政策課長、生涯学習課長、スポーツ振興課長、総務課長補佐、危機管理課長補佐、スポーツ振興課長補佐、危機管理課係長、他

■資料 別紙のとおり

■市長あいさつ

記者の皆様には、大変お忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。また、日頃より、本市の情報発信等にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

先月、茨城県を代表するご当地グルメを決定する、「シン・いばらきメシ総選挙2024」が開催され、5月の定例記者会見で発表させていただきました、本市の「江戸崎かぼちゃのほっくりモンブランプリン」が、皆様のご支持を受け、見事、協賛企業特別賞の「カスミ賞」を受賞いたしました。記者の皆様におかれましては、情報の発信につきましてご協力を賜り、誠にありがとうございました。今後、株式会社カスミによる商品化が予定されており、「稲敷市」と「江戸崎かぼちゃ」にとりましても、大きなPRに繋がると考えております。

また、今月10日には、「観光・交流の拡大による賑わいのある地域の再生」をテーマに、第2回持続可能な地域づくりシンポジウムを開催いたしました。基調講演や、市内外でご活躍される方々をお迎えしたパネルディスカッションを通して、本市における地域資源の魅力を再認識するとともに、県や民間事業者の皆様とつながり、互いの特性やノウハウを生かして力を合わせていくことはもちろん、市民の皆様の活動を支援し、多くの方々と共に魅力あるまちづくりを進めていく決意を新たにいたしました。

さて、稲敷市は、来年3月に市制施行20周年を迎えます。来年度は市民の皆様とともにお祝いをする事業期間としており、それに先立ちまして、20周年を記念するキャッチフレーズ、市内小中学生を対象とした「こども絵画コンクール」入賞作品を本日、発表させていただきます。

また、来年2月に予定している記念式典においては、ふるさと大使である、市公式マスコットキャラクターの稲敷いなすけの新ファミリーが発表される予定です。多くの皆様と20周年を祝い、盛り上げていく事業を開始してまいりますので、引き続き、記者の皆様におかれましても情報発信等にご協力をよろしくお願いいたします。

本日は、来月3日開会予定の令和6年第4回稲敷市議会定例会について、担当よりご説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。本日は、誠にお疲れ様でございます。

■質疑応答

【稲敷市職員の茨城ゴールデンゴールズへの入団について】

Q:今回入団する2名の市職員に対して、市長がどのような期待をお持ちかお聞かせ願いたい。

A:茨城ゴールデンゴールズへの市職員の入団は、球団設立以来初のできごと。市職員の入団を通じて、茨城ゴールデンゴールズがより身近な球団として親しまれることを期待している。

Q:入団後も市職員として在籍し兼務という形になるのか？

A:兼務。茨城ゴールデンゴールズはクラブチームなので、活動は主に週末に行う予定。

Q:今回入団する2名の出身地と出身高校を教えてください。

A:荒張直也(茨城県行方市出身・成田高校)、中澤開斗(千葉県柏市・専修大学松戸高校)

【配偶者控除(103万円の壁)の見直しについて】

Q:見直しが行われた場合、市の歳入にはどの程度の影響があるか。

A:控除の上限額が103万円から178万円になったと仮定した場合、市民税が約6億円の減少、地方交付税が約4億4000万減少となる見込み。歳入における割合だと、令和6年度当初予算における市税が51億円。うち市民税は19億6000万なので、市民税が6億円減少すると、約3割の減収。市税全体では12%の減収となる。地方交付税については、令和6年度当初予算額が61億6000万円なので、7.1%の減収となる。非常に大きな影響が見込まれる。

Q:歳入減少が見込まれることに対して、市長のコメントをいただきたい。

A:大きな税収減少が見込まれるので、市民サービスの低下を招きかねないと考えている。税収の不足分を国で手当てしてもらえよう、全国市長会等を通じて国へ強く要望していきたいと考えている。